

わが街・わが地域の史跡・遺跡を訪ねる（5）

— 上新木の旧「地蔵院」と千体地蔵 —

我孫子市史研究センター 飯白 和子

前回までは、成田線より南側の史跡・遺跡について述べました。今回からは北側についてお話しします。

日秀寄りの国道 356 号沿い北側に「上新木青年館」があります。門柱の左右に消防団分団の倉庫と火の見櫓やぐらがあります。ここが旧地蔵院です。旧境内には、地蔵堂・大師堂（新四国相馬霊場第 25 番札所）の外、近在から移された石造物や歴代住職の墓塔などがあり



地蔵堂(左)と25番大師堂(右)

ます。旧地蔵院と「旧」が付くのは、今から 142 年前の明治 6 年

（1873）8 月に明治維新政府の政策で廃寺にされたためです。地蔵堂には像高 23～24cm の木造地蔵菩薩が 1227 体奉納されています。「千体地蔵」と呼ばれ、近在ではあまり見かけない貴重なものです。



本尊延命地蔵と千体地

●地蔵院

寿永山と号し、中峠の龍泉寺（真言宗）の末寺。開基・開山などは不明ですが、江戸時代初めにはすでに建立されていたと考えられます。本尊は、延命地蔵菩薩（厨子入り）。他に地蔵菩薩立像、不動明王像、千体地蔵などが祀られています。旧本堂は、如海和尚にょかいおしょうの代の明和 7 年（1770）に再建され、昭和 44 年（1969）に上新木青年館が建設されるまでありました。昭和 57 年（1982）8 月に、現在の地蔵堂が完成し、諸尊像が安置されました。堂の正面は縦ガラス張りで何時でも本尊はじめ諸仏と 1227 体の千体地蔵が拝めるようになっています。

●千体地蔵

千体地蔵は、23～24cm の松を縦二つに割り、一木造りの像に彫り、顔は肌色、衣は墨塗り。鉄線の輪の光背こうはいが付いています。奉納は明治 30 年（1897）ごろから始まり、32 年にピークを迎え 35～6 年ごろには終息に向かいます。奉納者は、地元湖北を除くと旧東京市 15 区の日本橋、小松川、本所、神田、麻布などの人々が中心で、その数は地元湖北より圧倒的に多いことが分かりました。

●浄名院の八萬四千体地蔵

台東区上野桜木に浄名院じょうみょういん（天台宗）というお寺があります。寛文 6 年（1666）に寛永寺 36 坊の一つとして創建されました。地蔵信仰の寺に成ったのは第 38 世地蔵比丘じそうびくみょううん妙運和尚の代からといえます。妙運和尚は、日光山星宮じょうかんあんの常観庵で修行を積み地蔵信仰を得、千体の石造地蔵菩薩の建立を発願したといえます。明治 9 年（1876）浄名院の住職になると、同 12 年にさらに八万四千体の建立を発願。これに協賛した人々が奉納した石造地蔵菩薩で浄名院の境内は埋め尽くされています。この八万四千体の内の六万六千六百番と六万六千六百一番の 2 基が、上新木の旧地蔵院の境内にあ



旧地蔵院境内の八萬四千体地蔵

るのです。奉納者は東京の人で、明治 30 年と 32 年に建立しています。さらに板状の石に線刻された地蔵像も 3 基あります。上新木の千体地蔵も、同時期に東京の人々により奉納されています。

（引用文献：『市史研究 9 号』、『市史・民俗文化財篇』、「八万四千体地蔵」台東区教育委員会）